

第8回瀬戸内4県都市長会議を開催しました



令和4年8月29日（月）に、広島市内にある「ヒルトン広島」において、「第8回瀬戸内4県都市長会議」を開催しました。

まず、令和4年度事業報告として、広島市から、「国内向け観光プロモーション」の実施状況について報告がありました。事業内容は二つあり、一つ目は「4市合同での観光PRイベントの開催」、二つ目は「SNS等を活用した観光情報の発信」です。一つ目の「4市合同での観光PRイベントの開催」では、動画コンテンツを用いたVR体験、観光PRステージ、チラシ等のサンプリング、アンケート抽選会、観光PR動画の放映を実施しました。二つ目の「SNS等を活用した観光情報の発信」では、4市合同のPRポスターの作成、中国・京阪神エリアのJR主要駅構内への掲出、JR西日本のInstagramへの4市観光情報への投稿、インフルエンサーによる4市での取材・素材収集・投稿に取り組むものです。

次に、「瀬戸内の周遊促進」に関する意見交換を行いました。これは、令和4年度事業の「国内向け観光プロモーション」は瀬戸内エリアへの誘客促進に向けた取組ですが、次のステップとして、瀬戸内エリアに訪れた観光客を一つのエリアに留めるのではなく、瀬戸内の様々なエリアへの周遊を促す仕掛けが重要であることから、意見交換を行うものです。

松山市は、「瀬戸内・松山構想」に基づき、広島地域の資源と松山の資源を組み合わせ、旅行市場で定着するようなプロモーションの実施、岡山市は、JRを活用した外国人観光客の誘客及び周遊促進に関する提案、高松市は、「やしまーる」を含めた屋島の魅力発信や、瀬戸内国際芸術祭の開催を契機としたアートに関心の高い層の取り込み、広島市は、サッカースタジアムの建設や広島駅南口広場の再整備等について発言されました。

最後に、松山市から来年度事業について提案がありました。新型コロナウイルス感染症の流行で往来が途絶えて以降、約2年ぶりに訪日観光が再開したこと、また、2025年に大阪・関西万博が開催されることなどを踏まえ、インバウンド向けのアプローチが効果的であると考え、海外メディアへのプロモーションをテーマに、事業を実施する方針としました。